

**ArcGIS**  
10.1

**ArcGIS 10.1 for Server**  
**機能比較表**



## 目次

<b>ArcGIS 10.1 for Server 機能比較表</b> .....	<b>1</b>
はじめに.....	1
機能比較表.....	1
<i>ArcGIS for Server</i> の最適なエディションとレベルの選択 .....	1
<i>ArcGIS for Server</i> のインストール.....	3
詳細な機能比較表 .....	4
空間タイプをサポートするデータベースの使用.....	4
ジオデータベース管理.....	4
Web サービス.....	5
Web マッピング アプリケーション / API .....	6
モバイル アプリケーション / SDK.....	7
Web 編集.....	8
ジオプロセッシング .....	10

# ArcGIS 10.1 for Server 機能比較表

## はじめに

ArcGIS for Server は 2 次元のマップや 3 次元のマップ、住所ロケータ、ジオデータベース、ジオプロセシングのツールなどの地理情報システム (GIS) のリソースを、組織内や Web 上で共有するための製品です。ArcGIS for Server システム上に GIS のリソースをホストすることで、Web マッピング アプリケーションやモバイル端末などのクライアントから利用することを可能とします。

GIS サーバ上で GIS のリソースを共有することで、データの公開や広範囲の閲覧者に情報を伝達するだけでなく サービスやアプリケーションを介して GIS の機能を組織内外のユーザに配信することができます。

ArcGIS for Server は要求に応じた機能 (エディション) と規模 (レベル) に対応したライセンスを提供しております。

本ドキュメントは、どのライセンスが利用用途に適しているかを示すガイドとてご利用いただけます。

## 機能比較表

### ArcGIS for Server の最適なエディションとレベルの選択

組織に最適な ArcGIS for Server の機能と規模を選択するためには、以下の 2 つの質問をご検討ください。

1. GIS システムにはどのような機能が必要ですか？
2. GIS システムはどのぐらいの規模 (ストレージと同時接続数) をサポートしますか？

## 機能

ArcGIS for Server は機能に応じて 3 つのエディション（Basic, Standard, Advanced）を提供しています。以下の表は、エディションごとに利用可能な機能を表します。各機能の詳細は、「詳細な機能比較表」のセクションをご参照ください。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
<a href="#">空間タイプをサポートするデータベースの使用*</a>	○	○	○
<a href="#">ジオデータベース管理</a>	○	○	○
<a href="#">GIS Web サービス</a>	○	○	○
<a href="#">Web マッピング アプリケーション</a>	○	○	○
<a href="#">モバイル アプリケーション</a>	○	○	○
<a href="#">Web 編集</a>	-	○	○
<a href="#">ジオプロセッシング</a>	-	○	○
<a href="#">高度なジオプロセッシング</a>	-	○**	○

\* データベース固有の空間データ型をサポートします。

\*\* 高度なジオプロセッシングを利用するにはエクステンションが必要です。

ArcGIS for Server はエクステンションを利用することで、高度な分析機能を追加することが可能です。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
3D	-	-	○
Spatial	-	-	○
Network	-	○*	○
Image	-	○*	○*

\* オプション

ArcGIS for Server で利用可能なエクステンションの機能詳細は[弊社製品ページ](#)をご参照ください。

## 規模

前章で説明された 3 つのエディションは、さらに利用規模（レベル）に応じて Workgroup と Enterprise の 2 つのライセンスが存在します。

	レベル	
	Workgroup	Enterprise
ArcSDE ジオデータベースへの最大同時接続	10	無制限
ArcSDE ジオデータベースの格納容量	10 GB*	無制限
利用できる最大コア数	4 コア	無制限
ArcGIS for Server コンポーネントの分散配置	不可**	可

\* ArcGIS 10.1 for Server Workgroup には Microsoft SQL Server Express 2008 R2 が同梱されており、データベースの最大容量が 10 GB までと制限されております。

\*\* Workgroup のライセンスでは、すべてのコンポーネントを同一マシンにインストールする必要があります。

システムに要求される機能と規模を選定することで ArcGIS for Server のエディションとレベルを特定することが可能です。たとえば、ArcGIS for Server Enterprise Standard は ArcSDE ジオデータベースへの無制限のアクセス、大規模な ArcSDE ジオデータベースの構築、標準的な ArcGIS for Server の機能をサポートします。

## ArcGIS for Server のインストール

すべてのエディションとレベルの ArcGIS for Server は 64-bit OS 上にインストールする必要があります。ソフトウェアは、物理または仮想サーバ、もしくはクラウド基盤状にインストールすることが可能です。

最新の動作環境については、[製品ページ](#)をご参照ください。

## 詳細な機能比較表

### 空間タイプをサポートするデータベースの使用

ArcGIS for Server は空間タイプをサポートする商用データベースに格納された空間データを直接利用、管理することが可能です。ArcGIS for Server Basic では、空間タイプのデータを参照専用のフィーチャサービスとして利用可能です。フィーチャ サービスを利用することで、データベースの情報を Web ブラウザやモバイル端末のアプリケーションのマップに表示したり、検索したりすることが可能です。以下のデータベースがサポートされます。

- Microsoft SQL Server
- Microsoft SQL Server Express

### ジオデータベース管理

ジオデータベースは ArcGIS がより高度な GIS データ管理ワークフローや地理空間情報データ モデルをサポートするために、データベースの空間機能を拡張します。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
ジオデータベース管理	○	○	○

ArcGIS for Server Basic 以上のエディションで提供されるジオデータベース管理機能は、ArcGIS for Desktop からユーザの同時編集を可能にし、ジオデータベースの分散管理を実現します。

### ジオデータベースの利点

商用データベースはシンプルな空間データをサポートします。ジオデータベースはこのフレームワーク上に構築され、データベースの機能を拡張することで以下のような高度な GIS データ モデルや最も要求の厳しい GIS ワークフローをサポートします。

- ロング トランザクションと競合解決（バージョニング）
- 施設、河川、交通ネットワーク モデル
- トポロジ、属性、接続ルールに準じたデータ検証

- トランザクションの履歴管理
- アノテーション（テキスト）、ディメンション、土地台帳などの複雑なデータ
- 高度なシンボル（カートグラフィック リプレゼンテーション）
- 接続/非接続環境でのデータベース分散管理（ジオデータ サービス）

Enterprise レベルは、以下のデータベース環境において ArcSDE ジオデータベースをサポートします。

- IBM DB2
- Microsoft SQL Server
- Microsoft SQL Server Express
- Oracle
- PostgreSQL

Workgroup レベルは、Microsoft SQL Server Express のみサポートします。

サポートされるデータベースについての情報は[弊社製品ページ](#)をご参照ください。

## Web サービス

Web サービスは、ArcGIS for Desktop や Web アプリケーション、モバイル端末、3<sup>rd</sup> パーティ アプリケーションなどのクライアント アプリケーションで GIS のリソース共有を簡単に実現します。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
GIS Web サービス	○	○	○

### GIS Web サービスとは

GIS Web サービスはローカル ネットワークまたはインターネットを介して GIS のリソースを共有するために利用されます。ArcGIS for Server で公開する Web サービスは、Web の標準である REST（Representational State Transfer）、業界標準である SOAP（Simple Object Access Protocol）、Open Geospatial Consortium（OGC）標準に準じています。



以下の GIS Web サービスの機能が利用可能です。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
ジオデータベース レプリケーション	○	○	○
フィーチャ サービス (参照のみ)	○	○	○
ジオメトリ サービス	○	○	○
ダイナミック マップ サービス		○	○
キャッシュ マップ サービス		○	○
フィーチャ サービス (編集)		○	○
ジオプロセッシング サービス		○	○
ジオコーディング サービス		○	○
グローブ サービス		○	○
高品質な印刷		○	○
エンタープライズ サーチ サービス		○	○
イメージ サービス		○*	○
ネットワーク解析		○**	○
モバイル (Windows Mobile)		○***	○***

\* モザイク データセットまたはモザイク関数を含むラスタ レイヤを使用する場合は、ArcGIS Image Extension for Server が必要

\*\* ArcGIS Network Extension for Server が必要

\*\*\* 使用可能なエディションとライセンスは[モバイル アプリケーション / SDK](#) をご参照ください。

## Web マッピング アプリケーション / API

すべてのエディションの ArcGIS for Server は、すぐに利用可能な Web マッピング アプリケーションを利用可能です。

- ArcGIS.com Map Viewer
- ArcGIS Viewer for Flex
- ArcGIS Viewer for Silverlight
- ArcGIS Explorer Online
- Esri Maps for Office

開発者は、以下の ArcGIS アプリケーション プログラミング インタフェース (API) を利用して、カスタムの Web マッピング アプリケーションを開発できます。

- ArcGIS API for JavaScript
- ArcGIS API for Flex
- ArcGIS API for Silverlight

**重要 :**

Web Application Developer Framework (ADF) は ArcGIS 10.1 for Server がサポートされる最後のリリースとなります。

3<sup>rd</sup> パーティのアプリケーションと開発環境は、SOAP, REST, および OGC 準拠のインタフェースを介して ArcGIS for Server が公開するサービスを利用できます。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
Web マッピング アプリケーション	○	○	○

## モバイル アプリケーション / SDK

すべてのエディションの ArcGIS for Server はさまざまなプラットフォームのモバイル アプリケーションをサポートします。

- ArcGIS for iOS
- ArcGIS for Android
- ArcGIS for Windows Phone
- ArcGIS for Windows Mobile (旧名称 ArcGIS Mobile)

開発者は以下のようなソフトウェア開発キット（SDK）を利用してカスタムのモバイル アプリケーションを開発できます。

- ArcGIS Runtime SDK for iOS
- ArcGIS Runtime SDK for Android
- ArcGIS Runtime SDK for Windows Phone
- ArcGIS Runtime SDK for Windows Mobile

機能		エディション		
		Basic	Standard	Advanced
ArcGIS for Windows Mobile – アプリケーション / SDK	Workgroup	–	–	○*
	Enterprise	–	○*	○

\* 別途配布ライセンスが必要

機能		エディション		
		Basic	Standard	Advanced
ArcGIS for iOS, Android, Windows Phone – アプリケーション / SDK		○*	○	○

\* 参照のみ

最新の動作 / 開発環境については、[製品ページ](#)をご参照ください。

## Web 編集

以下の ArcGIS for Service のサービスを利用して データベースまたはジオデータベースに格納される空間および属性情報を編集できます。

- フィーチャ サービス
- ジオメトリ サービス（補助的に編集ワークフローに利用される場合があります）

## フィーチャ サービス

フィーチャ サービスは イン트라ネットおよびインターネットを介した ArcSDE ジオデータベースの編集をサポートします。Web ブラウザ、モバイル アプリケーション、REST や OGC WFS-T に対応したクライアントは、このサービスを介して地理空間データの追加、削除、更新を行うことができます。

フィーチャ サービスはステートレスな REST Web サービスとして実装されており、最高のパフォーマンスとスケーラビリティを提供します。ArcGIS for Desktop で作成した フィーチャ テンプレートをサービスとして公開することで、Web を介して構造化された GIS データの編集を実現します。これにより、クライアントはユーザに直観的な Web 編集環境を提供します。

フィーチャ サービスはデータベースに格納される空間タイプの直接アクセスをサポートします。ArcSDE ジオデータベースは「ジオデータベースの利点」で紹介されているような機能を提供しますが、ArcGIS for Server はジオデータベースにテーブルを登録することなく、直接空間タイプのデータを参照 / 編集可能なフィーチャ サービスをサポートします。

## ジオメトリ サービス

ジオメトリ サービスは、以下のようなジオメトリ演算の機能をアプリケーションに提供します。ジオメトリ サービスはフィーチャ サービスと組み合わせて利用することで、Web 上での複雑な GIS 編集をサポートします。

- バッファ
- 単純化
- 面積と距離の計算
- 分割
- データの投影変換

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
Web 編集	○	○	○

## ジオプロセッシング

ArcGIS for Server は数多くのジオプロセッシング機能を提供します。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
ジオプロセッシング	–	○	○
高度なジオプロセッシング	–	○*	○

\* 要エクステンション

### ジオプロセッシングとは

ジオプロセッシングは入力データセットを受け取り、そのデータセットの処理を実行し、処理の結果として出力データセットを作成します。

ArcGIS for Server では、サーバへのジョブの投入と結果の受け取りを可能とするジオプロセッシング サービスを公開できます。ジオプロセッシング サービスの公開には、ArcGIS for Desktop の ModelBuilder の機能を利用しモデルを作成する必要があります。モデルは GIS の処理を自動化するための論理的に連結されたジオプロセッシング ツールまたはスクリプトです。ArcGIS for Server はモデルを利用してサービスを実行することにより、クライアントのコンピュータ リソースを解放し、クライアント コンピュータ間で複数のコピーを作成する問題を解決します。

ジオプロセッシングは ArcGIS for Desktop Standard レベルのジオプロセッシング ツールボックスと同様のツールをサポートします。

### 高度なジオプロセッシングとは

高度なジオプロセッシングは ArcGIS for Desktop Advance レベルのジオプロセッシング ツールボックスと同様のツールをサポートします。高度なジオプロセッシングの例は、高度なルート解析や適合性分析です。

## ArcGIS 10.1 for Server 機能比較表

2012年10月1日

ESRI ジャパン株式会社

<http://www.esrij.com/>

Copyright(C) Esri. 無断転載を禁ず

本書は Esri 社著作の ArcGIS 10.1 for Server Functionality Matrix (April, 2012) を翻訳したものです。

本書に記載されている社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

本書に記載されている内容は改良のため、予告なく変更される場合があります。

本書の内容は参考情報の提供を目的としており、本書に含まれる情報はその使用先の自己の責任において利用して頂く必要があります。

